



藤澤友吉 篇1

友吉、修行の日々

藤澤友吉は、慶応2年（1866）に名張市の古くから続いている商店の福守五兵衛の長男 佐兵衛と、大宇陀で薬を取り扱う商人の細川治助の次女のまつの子として生まれます。友吉は、大阪で商人の修行するまでの間、名張で過ごし、祖父の細川家（大宇陀）も度々、訪れていたようです。

まつの実家の細川家は、薬を取り扱っており、天保7年（1836）には、にんじんごぞうえん人參五臟圓・ていじゅがん天寿丸という胃腸薬を販売します。

大宇陀の細川邸は、江戸時代末期の建築と推定されています。建物は、江戸時代の商家町松山の面影を残す建造物として、平成4年に大宇陀町指定文化財（現在は宇陀市指定文化財）に指定され、平成7年（1995）には、大宇陀町歴史文化館『薬の館』として開館しています。ここでは、大宇陀の歴史資料をはじめ、藤沢薬品や細川家ゆかりの資料などを展示しています。

また名張市には、細川家の支店があり、治助の別邸として使用されました。この細川邸は、歴史的町並みの保存整備に関する拠点施設「やなせ宿」とするため、修理工事が行われ、今も当時の面影をたどることができます。

明治7年（1874）、友吉6歳の時に大阪の薬商人の家に住み込みで働くようになりました。友吉は、働き先の田畑商店店主の田畑利兵衛から兵庫県尼崎市の漢方医藤澤新平への養子縁組を勧められます。友吉は、明治15年（1882）に藤澤家の養子となり、明治21年（1888）に家督を継ぎます。明治24年（1891）に田畑利兵衛から商人として独立が許されるまでは、修行の日々が続くとになります。

